

〈教祖の食生活〉

■食への姿勢

- ・どんなものも黙祷し、「おいしい」と召す。
- ・粗食（お菜ものはほんの少し）
- ・自分だけ食べることはせず、皆と分け与え、共に喜びを分かち合った。

■好まれたもの

- ・お粥

※ 米（茶飲み茶碗1杯）＋ 水（ご飯茶碗2杯）＋ 大豆（欠けていない大豆を盃1杯分煮る）＋ 塩（少々）

・味御飯、色御飯（芋御飯、豆御飯、干瓢御飯、松茸御飯、南瓜御飯、赤飯、麦御飯など/よく「おにぎり」を人に拵えた）

- ・飴

・少量の味醂（ごく小さいお盃に2,3杯/「柳本村の勝井酒店」は格別においしいと喜ばれた/「前栽の松本」もお気に入り/瓢箪に入れて）

- ・魚

- ・柿の葉寿司

- ・生の薩摩芋（ワサビ下ろしですったもの/高齢になられてから時々）

■食べなかったもの

牛肉、鳥肉、馬肉

（「肉まで食べなくとも、他にいくらでも食べるものがあるやろう」と仰せ）

■断食

- ①慶応元（1865）年（68歳）9月20日頃～約30日間
- ②明治5（1869）年（72歳）4月末～6月初めにかけての38日間
- ③明治5（1872）年（75歳）6月初め頃～75日間（8月中頃まで）
- ④明治15（1882）年（85歳）10月29日～11月9日の奈良監獄署
- ⑤明治19（1886）年（89歳）2月、櫛本分署での12日間